

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300320		
法人名	社会福祉法人博美会		
事業所名	小規模多機能型ホーム富士の里		
所在地	富士市天間1627-1		
自己評価作成日	令和3年 12月 29日	評価結果市町村受理日	令和4年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 2月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・関連医療機関より、定期的な訪問診療、訪問看護、居宅療養管理指導により、健康管理支援体制が整っているため、緊急時についても早急の対応ができています。
・感染症予防対策のため、地域行事への外出やボランティア等の訪問がない状況となっているため施設内において、生活上の活動(洗濯物たたみや洗濯物干し等)の他にレクリエーション活動の充実を図り、楽しく生活ができるように工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの建物は小規模多機能型居宅介護事業所との併設施設である。地域や家族、また職員から意見や要望が出され、合同開催の運営推進会議において、今後の課題や改善策等を具体的に示している。業務における最優先課題を「土台の安定化」として、ゼロから意識の共有と記録方法の徹底に取り組み、同方向の実践に繋げていく考えである。地域交流として小学校の花壇の手入れに伺い、返礼のもち米で山菜おこわを調理し食卓で味わったこともある。従来、地域行事や催しに積極的に参加しているが、今後は感染症等の社会情勢に合わせて事業所に足を運んでもらえるような企画を提案していきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「家族を連れて来ることができる場所」を念頭に利用者様のご家族様とのコミュニケーションを大切にしており、家族が気軽に立ち寄れる雰囲気がある。現在面会制限はしているが、15分以内で度々面会に来てくださっている。	法人理念を基に、事業所理念「利用者優先の支援を」を掲げている。法人による記述式自己評価の際に職員個々に年度目標を設定し、目標達成に向けて具体的な数値目標を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策の為地域行事もなく、ボランティアの受け入れも現在できていないが、屋外散歩等を行った時には地域の方と挨拶を交わしたり、近隣の方々が自宅で採れた野菜や果物の差し入れ等がある。	地域小学校の花壇の手入れに出向いたり、手縫いの雑巾を寄付したりしている。返礼のもち米で山菜おこわを調理し、食卓で味わったこともある。踊りや話し相手、紙手紙等、ボランティアの来訪再開を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催しているが、感染症対策の為事業所内での会議が主になったため書類送付にて報告をした。11月には久しぶりに地域の方々と推進会の開催ができれば施設見学をしていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者家族にも参加していたり、事業所内の様子や取り組み等の情報開示をし、地域に根差した明るく気軽に立ち寄れる施設を目指している。家族や地域の方々からの意見をうかがい、会議等で話し合いサービスの向上に努めている。	併設施設である小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施している。地域関係者や家族、また職員から意見や要望が出され、ディスカッションしている。今後は課題等への取り組み内容や経過に関する報告も都度行っていく。	利用者の利益に繋がる会議であることから、当事者である利用者の同席が実現することが期待される。合同開催であっても議事録は事業所別に区別された内容であること、また、家族全員に同様に伝えることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際には情報の交換を行い、また不安な点や疑問等については直接市町村に問い合わせ相談するなど行っている。	県東部ではグループホーム連絡会が有益な情報収集の機会となっている。現在は3か月に1回程度のオンライン会議を実施しており、課題の共有や対処方法の把握に役立っている。現在は中止となっているが、介護相談員の派遣の受け入れも継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会において、研修の計画、実施、研修報告書の提出を求め、職員教育を実施している。カンファレンスや会議において、利用者優先の介護の実践に努めている。	委員会は毎月行い、今年度はスピーチロック研修を2回実施している。その内1回は、パターン別のシチュエーションを想定したロールプレイ形式で実施し、気づきと今後の支援について記録し職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会において、「高齢者虐待防止に向けた施設従事者のための自己チェックリスト」を実施すると共に施設内研修の実施を行っており、職員の意識向上に努めている。職員間の声掛けや言葉使いについても日々意識しながら業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての内部研修を実施し、学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度、日常生活自立支援事業を利用している利用者はいないが、資料情報やDVDを回覧して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご本人様、ご家族様の見学をしていただき説明を行っている。契約時には十分説明を行い、不安や疑問、意見を聞きながら理解や納得をしていただいている。また、制度改正時には、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、利用される方はおらず日々電話や面会時にご要望等をうかがいながら運営に反映させている。	家族への運営推進会議出席依頼は、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームで交互に行っている。年4回の家族会を中止しているため、見えない部分を家族に伝えることで不安払拭に努めたいと考えている。	利用者家族に出欠席を確認し、返信用紙等を活用して欠席者の意見を聞き取る機会を増やしていきたい。事業所からの積極的なアプローチが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや情報共有日誌を活用すると共に定期的な会議やカンファレンスにおいても、意見を出しやすく事前に自由記載で意見や提案を記載し、会議に出席できなくても意見や提案が出せるように工夫をしている。	業務改善会議(全体会議)を毎月1回以上実施している。運営推進会議においても出席職員から要望や意見、今後の取り組みについて発言があり、議事内容は職員全員で共有している。年2回ホーム長による個人面談があり、プライベートな内容を話す機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々目標管理を行い、スキルアップを目指すとともに評価を行い、給料、賞与、処遇改善加算等に反映している。年2回面接を行い、職員個々の生活状況において勤務状況の把握や労働時間等の相談を行っている。また、本人の希望する研修や、目標等を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が学びたい事項について外部研修に参加していただきながら、内部研修の実施を行っている。職員個々の勤務年数や力量に合わせ、個々目標管理を実施し、年2回の面接を実施し、相談に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市グループホーム連絡会に参加しており、ZOOMによる研修や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様の不安や要望をうかがい、ご本人様の嗜好や趣味など、事前の情報収集をもとに必要なニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただき、入居前の様子や生活歴、不安、要望などを十分に聞き取り、利用時の様子などについて電話にて報告をしたり、面会時にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で安心してサービスを受けられるようにご家族様より意向を確認し、支援方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、日常生活上の活動を一緒に行い、時には役割を持っていただくなどしている。人生の先輩から学ぶという姿勢で共に生活をしている。教え合ったり、励まし合ったり、喜怒哀楽を分かち合える関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時にご本人様の状況をお伝えしながら家族の意向をうかがっている。職員の支援だけでなくご家族様の関わりも持てるように出来る範囲での役割(季節の衣類の交換など)の機会を持っていただき共に支えあえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力にて、知人、友人の面会がある。現在は面会制限を行っている為15分以内での面会ではあるが、これまでの関係性が維持できるように支援に努めている。	現在の面会状況は居室の窓越しで10分程度であり、毎月来訪していた家族の面会が減ってきている。利用者と家族がお互いの声をしっかり聞き取れるように、窓越しで電話を掛け合うなどの工夫をしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように職員と一緒に関わる事でお互いが認めあい、支え合った関係が築けるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、一定期間、近況を開けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話や表情などから一人一人の思いを聞き取るように努め、気づきは職員間で共有して支援に活かしている。会話などが困難な場合には家族に状況を伝え相談しながら支援に当たっている。	情報共有日誌等により、利用者の思いを職員全員で共有して課題等を検討している。研修で認知症周辺症状の特徴を学び、職員の聞き方や話し方またその時の感情が、利用者の思いや意向の把握に影響することを改めて意識する機会となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の聞き取り等にて、情報収集に努め、ご本人様やご家族様からも意向をうかがい、1人ひとりの暮らし方などについて、なるべく今までの生活に即した支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムの把握を行い、その方に合った時間の流れに職員が合わせている。また有する力を維持できるように今できていることはご自分で行えるように声掛けや見守りを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを実施し、その都度課題とケア方法について検討をしている。本人、家族の意向の確認の他、医療機関からの意見も反映し、介護計画を作成している。	利用者全員の情報を職員全員から収集し、面会時に家族から要望等を聞き取っている。計画作成担当者がサービス内容評価と目標達成度の確認を行い、介護計画を作成している。見直しの基本は短期6か月、長期1年であるが、臨機応変に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調や様子について個別記録に記載しており、その他、気になる事などについては情報共有日誌に記載し職員間で共有しながら支援に当たっている。また定期的なカンファレンスの開催により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や専門職のアドバイスを受けながら連携を図りその時々ニーズに合わせて対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は定期的なボランティアの来訪や地域行事等に積極的に参加して地域との交流を深めていたが、感染予防のため交流ができていない。近隣散歩にて地域の方と挨拶をしたり、近隣の方から、自宅で摂れた野菜や果物の差し入れがあり有難く思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科的には往診で内科的な管理はしているが、その他の受診は、本人、家族の希望される病院を受診している。受診時や往診時には入居者の状態を主治医に報告をしている。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。「訪問診療/事前報告書」を用いて利用者の情報提供を行い、診察結果や変更等も記録している。週1回訪問看護ステーション看護師によるチェックも行っている。歯科診療は、臨機に事業所で実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、利用者との情報共有は図れている。支援時の状況や特徴、変化などを伝え、病院関係者との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には入居中の様子(食形態等)について病院に報告し、病院の相談員と密に連絡を取り合い状態の把握や退院時の対応等についても医師から指示をいただき対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化や終末期についても本人、家族の意向を確認しているが、重度化した際には早い段階で家族等と話し合いを行い、事業所で出来る事を説明し、再度家族の意向の確認をしている。また状況により、担当医から家族に身体状況の説明もしていただいている。	看取り期の方向性は、家族と相談して利用者本位の支援を最優先に決めている。看取り介護は終末期医療と異なり、あくまでも日常生活のケアであることを改めて確認している。家族・医療・事業所がチームとなり、最後まで本人を尊ぶ支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応については、マニュアルの作成があり連絡経路についても職員に周知している。応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っていない。(訪問診療、訪問看護より医療に関しては介護職員が行うべきではないと指示あり)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、防災の意識向上に努めている。様々な災害を想定して訓練を実施している。以前は地域の防災訓練にも参加していたが現在は感染予防のため地域の防災訓練も中止となっており参加できていない。	事業所所在地はハザードマップ対象地区ではない。隣接する同法人ケアハウスを待避場所としており、消防署にも伝えている。AED講習や初期消火、発電機使用訓練等を実施している。前回のステップであるマニュアルの見直しは、現在進行中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーの保護について研修を実施し、職員の意識向上に努めている。プライバシーへの配慮を意識しながら支援に当たっている。	自己決定や自己選択のできる支援が個人の尊厳・尊重に繋がることを再認識する機会として、権利擁護や個人情報保護法に関する研修(資料配布)を実施している。「土台の安定化」の一環として、今後は理解度を確認し意識共有する場を設ける考えである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できるような声かけを行い、思いを表出しているように心がけている。寝たきりなどで自己決定や表出できない方については利用者の状況や気持ちになって職員が選択することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日、その時の利用者様の状態に合わせて柔軟に対応するように心がけており業務優先ではなく利用者優先の介護を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様にも協力をいただき、季節ごとの衣類の入れ替えをお願いし、ご本人様らしい身だしなみができるように支援している。更衣時には衣類の選択の機会を設けるように声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みをうかがったり、利用者の希望でおやつ作り等に反映している。利用者個々の状態に合わせて出来る範囲で片付けなど手伝っていたている。	同法人ケアハウスの管理栄養士による献立を事業所で手作りしている。調理専門職員の配置があり、刻む音や匂い、盛り付けなど五感に拘っている。中庭で栽培した夏野菜や季節の行事食を献立に加え、旬を味わっている。中止していた出前も再開し、最近では焼肉弁当を注文している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、形態の把握に努め、病歴等によって調整を行っている。水分、食事量を記録し、その方の状態に合わせた提供をしている。誤嚥の心配がある方にはとろみ等の検討を医師、看護師と相談しながら実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った歯ブラシや口腔ケア用品を使用し、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。自力で困難な方には介助を行い、義歯や口腔内の状況把握に努め必要時には家族に相談しながら歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、失禁が少なくなるように声かけ誘導を実施している。下衣の上げ下げなどご自分でできることは促し、現在できている事については維持できるように支援している。	24時間シートでパターンを把握し、個々に合わせたタイミングで誘導している。この2年で日常生活動作の自立度に大きな変化はなく、今後も現状維持の支援に務めていく。パットによる不快感の軽減として、2時間ペースで汚れ具合を確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分の促しや介助、活動量の確保に努めている。また便秘の際には腹部のマッサージ等を行っている。必要に応じて主治医や看護師に相談し個々にあった対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に合わせて週2～3回の入浴を提供している。状況により、シャワー浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。湯船でゆったり入浴できるように時間に余裕や入浴人数などの調整を図り1対1で対応をしている。	入浴時間は午前中で、週3回入浴する利用者の割合が多い。日常的な入浴剤使用ではなく、しょうぶ湯やゆず湯等で季節感を大事にしている。皮膚疾患予防、湯温管理、清潔等に配慮して、お湯は個々に入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、自由に休息できるように支援を行っている。夜間は1時間に1回巡回をし、安心して安眠できるように見守りを重視している。体力的に日中の臥床が必要な場合には休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の保管箱に管理し、ダブルチェックをして誤薬防止に努めている。処方内容に変更があった場合には職員間で情報を共有し、観察を行い、主治医や看護師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、出来ない事、好きな事等の把握に努め 出来る事を職員と一緒にしたり、役割を持つ事で自信を持つ事ができている。季節の行事を大切にし、誕生日会では誕生者の好みのおやつ作りをしてお祝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため外出の機会は少ないが、天候が良い日には屋外散歩に行くなどし、気分転換を図っている。近隣の方との挨拶やちょっとした会話も楽しみの一つであると思われる。感染の心配がなくなった時にはどこに行きたいか等話をうかがいながらその日を楽しみに待っている。	事業所の玄関先や中庭での日光浴が多くなっている。中庭のベンチで温めた座布団に腰を下ろし、会話を交わしたりお茶を飲んだりしている。季節の花見やいちご狩り等、体力等を考えて片道30分程度の場所にドライブに出かける日が待ち遠しい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染症予防の為外出や買い物の機会がない。しかし、出前を取るなどして支払いの支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話を取り次ぐなどの支援を行っている。また家族に暑中見舞いや年賀状を作成し郵送している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節を感じられるように季節の花や飾りをし、明るい雰囲気心がけている。自室の壁にはご自身の写真を貼っている。その他レクや行事などの写真を掲示している。ソファや畳など自由に好きなところで過ごしていただいている。	居間に飾られた手作りの制作物は、折り紙や色画用紙素材の水仙や梅、うぐいすである。季節の行事や誕生日のデザート作りなどで集う居間は、日当たりが良く心とむとされる暖色系の照明を取り付けている。事業所内に清掃職員の配置があり、介護職員が支援やケアに集中できる環境にある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の対人関係を大切にしながら、気の合った方と仲良くおしゃべりできる畳スペースや、廊下で日向ぼっこができるように椅子を配置するなどして自由に過ごせるように配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご家族様に協力を得て、使い慣れたもの、馴染みの物を配置することにより安心して過ごせるように配慮している。	体力や傾眠状態に合わせて居室で休息を取り、声掛けにより居間でレクリエーションに参加するなど、個々のペースで過ごしている。快適に休めるように、利用者がいない時間に清掃と換気を済ませている。カレンダーや装飾品等の扱いは、必ず家族に相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかりやすいようにご本人様の写真を貼り困らないように配慮している。廊下には手すりを配置し施設内はバリアフリーである。個々に合った出来る事を探求し声掛けや見守りを行っている。			